

# デザイン概念など紹介

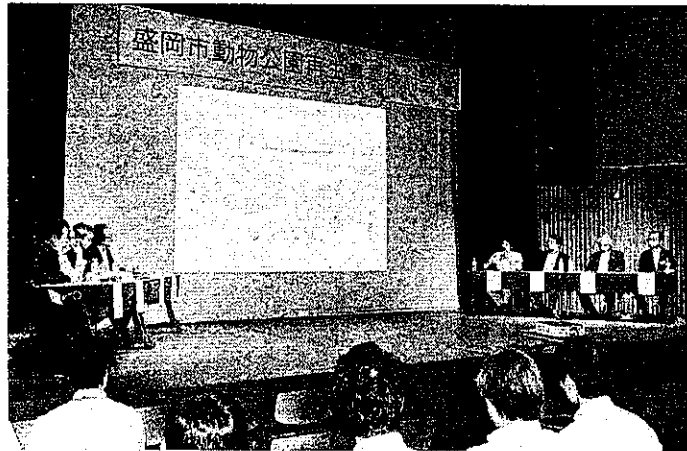
## 盛岡市動物公園 第2回再生事業検討会議

盛岡市動物公園の官民連携事業での再生に向け、基盤整備調査業務を受託したオガール(岡崎正信代表取締役)による第2回盛岡市動物公園再生事業検討会議(座長・清水義次)が28日、同市中ノ橋通のプラザでおつてで開かれた。

大島専務取締役は、物語性のある動物公園とするため、出入り口部分の他、三つにゾーニングすることを提案。アプローチ部分には来園者を歓迎するようサル山を設け、ワ

デザインコンセプトなど、検討の途中経過を市民らに説明した。同検討会議は10月にも開催を予定する。

会議では、建築設計事務所ブルースタジオの大島芳彦専務取締役が、市動物公園のデザインコンセプトのアイ



デザインコンセプト案などを披露した盛岡市動物公園再生事業検討会議

クワク感を演出した他、日常的な里山の雑木林を散策し、動物公園全体を見渡すビューポイントにつながる園路、動物のいる谷を見下ろす地点、終着点には開放的なサバンナの草原をイメージした広場空間などを配置するデザインを紹介した。

岩手大農学部共同獣医学科の福井大祐准教授は、動物公園の在り方について「動物園や水族館は、伴侶動物や家畜以外にも野生種を展示する。見てもらうことで、メッセージを伝えることが大事。来園者に何かを感じ、知って、考えて、野生動物を守りたい、残していきたい」と行動することまでサポートするのが真の動物園の役割」と指摘。動物園は人と自然をつなぐ最も身近な玄関口で、楽しいが基本で、まず人に集まってもらい、そこから自然保護、教育研究につなげていくことが大

切とした。同日は、企業を対象にした市動物公園再生事業計画企業説明会も開催。岡崎代表取締役は、老朽化した獣舎改修などと収益事業は別の特定期限会社(SPC)を設けて、金融機関からの融資を募る想

# 君もポールのつた

## 10月6日盛岡ラグビートレーニャー ボランティア、

盛岡マチナカ・ラグビーボール・パズリレ実行委員会(明戸均会長)は22日、盛岡市内で記者発表し、10月6日日本番のリレー参加者(無料)とボランティア、協賛金の募集を呼び掛けた。来年のラグビーワールドカップ(W杯)を真全域で盛り上げようと、参加者は開催年にちなんで2019人以上(最大2400人)を募り、運営ボランティアも200人を確保する考え。協賛金は個人・事業所で合計150万円を目標額に掲げている。

明戸会長は「新日鉄釜石V7を知っている世代として、本県のラグビーは現在競技人口が少なくなっており、残念な思いがしている。4年に一度のW杯も、日本開催や地元岩手手の開催は一生に一度の大会となるだろう。県都盛岡から盛り上げ、全県に向けて機運

定であることを説明し、出席した企業に事業への参画へ理解を求めた。デザイン、設計を除き、建設や維持管理などは盛岡市に籍を置く地元企業を最優先とする考えも披露した。